

## 8月1日から1週間は世界母乳育児週間です

1990年、WHOとユニセフ(国連児童基金)は母乳育児の保護・促進・支援の必要性を「イノチェンティ宣言」として発表しました。これを記念し、毎年8月1日から7日は「世界母乳育児週間」と定められ、120カ国以上の国で母乳育児を奨励するさまざまな催しが行われています。

### ■母乳育児を促進する必要性

WHOは生後6カ月まで完全母乳育児を行い、その後は適切な食事を補いながら2歳かそれ以上まで母乳を続けることを推奨しています。完全母乳育児とは、水やそれ以外のものを与えず母乳のみで育てることをいいます。この背景にあるのが、栄養不良と子どもの死亡率の関係です。

世界で毎年死亡している5歳未満児の数は約800万人。その9割以上が開発途上国に暮らす子どもたちです。そしてその死亡の3分の1が、直接的または間接的に栄養不良に起因しています。乳児の栄養や免疫力の面で、母乳は最も優れた食事といえます。しかし、生後6カ月間の完全母乳で育てられている子どもはまだ3割程度という状況です。

また、完全母乳育児は感染症で亡くなる130万人の子どもの命を救うことができるともいわれています。これは感染症を予防する他の方法よりも効果的であるという報告があります（Hibワクチン予防接種4%、殺虫剤処理をした蚊帳の使用約7%、6カ月間の完全母乳育児とそれ以降11カ月までの母乳育児13%）。（Bellagio Child Survival Study Group. “How many child deaths can we prevent this year” Lancet 2003）

この他にも多くの効果が母乳にはあるので、国や環境にかかわらず、母乳育児は小児の成長にかけがえのない方法であると世界で認められています。

### ■母乳育児をサポートするために

しかし、母乳育児はさまざまな誘因によって妨げられます。途上国では母乳をあげるお母さんは多くても、知識不足や風習、就業などの理由から、早い時期から水や人工乳、離乳食等をあげてしまいます。



@bobbypal | photography. com

妊婦さんが健康を維持して、お母さんになって子どもに母乳をしっかりあげ続けていくには、家族をはじめ身近にいる人たちの理解と協力が不可欠です。

1年に1回、母乳の意義を確認し、「最低6カ月間は完全母乳で育て、子どもを健やかに育てましょう」と呼びかける世界母乳育児週間は、理解者と協力者を増やす恰好のキャンペーン活動です。今年（2013年）、世界母乳育児行動連盟（WABA）が掲げたテーマはまさに「Breastfeeding Support: Close to Mothers」。

途上国各地でもいろんなイベントが行われています。日本でもこの機会に多くの人や施設で、母乳育児に関心をもつ人たちが増えることを願っています。

WHOの世界母乳育児週間（World Breastfeeding Week）の詳細

→[http://www.who.int/mediacentre/events/meetings/2013/world\\_breastfeeding\\_week/en/index.html](http://www.who.int/mediacentre/events/meetings/2013/world_breastfeeding_week/en/index.html)

NPO 法人 HANDS → <http://www.hands.or.jp/>

平成 25 年 7 月 31 日  
社団法人日本 WHO 協会 理事  
NPO 法人 HANDS 代表理事  
中村 安秀

#### ■ケニア・ケリチョー県の母乳育児推進活動と保健ボランティアの役割

NPO 法人 HANDS は、首都ナイロビから 250km 程離れたケリチョー県で、母子保健ケアの改善をめざした活動をしています。

ケニアでは乳児死亡率が依然高く、低出生体重児も多いことから、生後 6 カ月間の完全母乳育児を推進してきました。そして 2009 年の活動開始時にわずか 5%だった完全母乳育児率は、2011 年には 33.9%まで上昇しました。村のお母さんたちへの啓発は、地域の母乳育児推進サポートメンバーが中心となって行ってきました。

そして 2012 年からは、母乳育児推進サポートメンバーが地域のお母さんと赤ちゃんの健康に向けた幅広いサポートが出来るようにと、産前・産後健診、衛生的な環境でのお産の重要性や性感染症の予防などについての追加研修を行っています。

さらに、多くの赤ちゃんとお母さんの健康を守るために、現在は「保健ボランティア」も育成しています。

保健医療施設から遠く離れた農村部では、病気にかからないことがとても重要です。住民からの健康相談に応じ、母乳育児をはじめ、妊産婦健診や予防接種、衛生指導など、幅広い保健啓発活動を実施し、病気の予防方法を伝える人たちが必要とされています。現在までに研修を終え、各地区での活動を始めた保健ボランティアたちは 80 名。自分たちの仕事の合間に担当の家庭をまわり、保健や衛生、健康状態の向上を目標に啓発活動を行っています。

2013 年の母乳育児週間は「We are one」のスローガンを加え、母乳育児サポートグループメンバーや保健ボランティア、コミュニティが一丸となって母乳育児をサポートしようと呼びかけるキャンペーンを行います。



2011 年 8 月母乳育児週間キャンペーンの様子\_ケニア・ケリチョー県キブシテット